



# 勝浦ロータリークラブ

## 50期 THE WEEKLY REPORTS

2012 - 2013年度

No. 9 / Total 2341  
 例会：2012年9月21日  
 発行：2012年9月28日

|                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| RI会長                              | 田中 作次  |
| 第2790地区ガバナー                       | 得居 仁   |
| 第5分区ガバナー補佐                        | 古市 一雄  |
| 第5分区幹事                            | 島田 誠一  |
| 第2790地区地区委員<br>ロータリー財団委員会<br>勝浦RC | 関 一憲   |
| 新世代奉仕委員会<br>鴨川RC                  | 羽鳥 鋭一  |
| 勝浦ロータリークラブ<br>会 長                 | 古川 範男  |
| 幹 事                               | 中村 満   |
| クラブ会報委員長                          | 小林 悠紀  |
| 副委員長                              | 渡邊 ヒロ子 |
| 委 員                               | 渡邊 昌俊  |
|                                   | 関 一憲   |

### ◆9月21日(金)のプログラム

#### ・ゲスト卓話

NHK千葉放送局

局長 篠原朋子氏

『NHK千葉放送局は今…』

### ◆9月の例会予定

#### 【新世代のための月間】

・9月28日(金) ゲスト卓話

(医)勝浦整形外科クリニック

院長 有馬三郎氏

### ◆10月の例会予定

#### 【職業奉仕月間・米山月間】

・10月 5日(金) ゲスト卓話

米山奨学生 ゴンザレス氏

・10月12日(金) ゲスト卓話

・10月19日(金)

地区大会21日(日)に振替

・10月26日(金) ゲスト卓話

### ●会長挨拶 古川範男会長



先程黙祷をささげましたが、渡辺光一会員の子息が亡くなられ18日に告別式に参加しました。その際改めて死というものについて考えさせられました。

私は曹洞宗の僧侶ですので、先ず思い浮かんだのが宗祖・道元禅師の著書「正法眼蔵」の中にある「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり」という表現でした。当時僧侶はまだ葬式主体の生活ではなく、修行に明け暮れておりました、毎日「生とは何か。死とは何か」と考えていた訳です。大変大事な問題だったわけです。

一方同じ鎌倉時代の法師、吉田兼好はその著作「徒然草」のなかで「死とは極めて平等なものである。如何なる人間にも死は訪れる」という趣旨のことを言っています。どんなに出世しても、あるいは出世などしなくても、死に直面すれば、そんなことは関係なく、皆平等です。いいところをついていると思います。

また、数年前に若くして亡くなった、ある女性哲学者は「人間は何故死ぬのか。それは生まれたからである」と喝破しています。

いずれにしても「死とは何かが終わること」でしょう。命の定義が「流れる＝動く」だとすれば、死は流れが止まり、固定化することに他ならないと思います。人間がその存在、役割を終え、物質になって固定化してしまうことです。

このことに言及したのが、ドイツの哲学者ハイデガーの「存在と時間」であり、さらにそれよりも700年も前に同様の論旨を展開したのが道元禅師の「正法眼蔵～有時」です。人間の存在(有)とは、その人にとって、時間(時)そのものであり、存在が消えれば時間も消えるのです。

ということは、ここからちょっと飛躍しますが、死とは存在の消滅であり、時間の消失である訳です。つまり、生きている間は時間も存在もありますから死はありません。死んだらどうなるか。時間も存在もありませんから、死を認識する存在自体がない訳です。

こういう形而上学的な考え方からすると「死などというものは存在しない」という結論が導き出されることとなります。とはいっても、実際に他人の死を見たり、死に関わったり(?)することはある訳ですから、物理的には死はあります。ために、死について悩んだり、苦しんだりする訳です。要は、本人にとって意識できない、存在が確認できない死に捕らわれてはいけない。そんなことに煩わされずに、今現在、ここにある自分を大事にして精一杯生きることでしょう。一意専心、余計なことを考えない、いわゆる三昧(さんまい)の生活を送ることが肝要だと思います。

## ●幹事報告 中村満幹事

1. 2012年10月のロータリーレートは1ドル=80円です。
2. 米山記念奨学会より2012年10月27日上海で中国学友総会が開催される予定でしたが、国際情勢の悪化にともない開催延期になりました。

## ●委員会報告

### ◆インターアクト委員会 岩瀬文夫委員長



インターアクト第二回合同会議参加の報告  
日時：2012年9月7日(金) 15時～17時  
会場：千葉市市民会館 第1・2会議室  
出席者：勝浦若潮高等学校 清水顧問教師、岩瀬 I A 委員長の2名が参加致しました。

### ◆米山記念奨学会委員会 君塚七郎委員長



10月は米山月間です。5日の例会に地区の委員長と奨学生のゴンザレス氏が卓和に来てくれます。お手元に配りました米山豆辞典に目を通していろいろ質問をして頂きたいと思います。宜しくお願い致します。

## ●交換学生フィリップ君のスピーチ



勝浦ロータリークラブの皆さん、こんにちは。この数週間、学校でたくさんの人に出会い、友達もできました。授業はまだよく理解できませんが自分なりに頑張っています。

先週は、浅草と秋葉原に行ってきました。スカイツリーも見ました。秋葉原ではメイドカフェに行っただ面白かったです。今日はお小遣いをありがとうございました。そのお金でハワイにお土産を買って帰ります。ありがとうございました。

## ●ニコニコ BOX

○本人誕生日

### ◆高梨薫敏 君



特別な誕生日なので一万円にしました。古来稀なる歳となってしまいました。今は普通に生きていれば70歳になると思うのですが、身体機能は確実に衰えております。一番切ないのは頭の回転が悪くなってきた事です。人が言ったことが即座に理解できない。漫才とか好きなのですが、一発芸で遅れて笑うとか歯痒いばかりです。もうちょっと生きられそうなので頑張っていきたいと思います。



● 関正己会員の御息が御結婚されました。  
おめでとうございます。



17日に明治神宮奉養殿で挙式をしました。初めて神主がいて、そして新郎新婦がいて、後ろから傘をさしてもらって行列が並ぶというのを経験しました。本当にありがとうございました。

● 講師の紹介 古川範男会長

篠原さんは千葉放送局で初めての女性局長で、是非一度卓和にお願いしたいとお声掛けしました。

6月に千葉に来られて、早速千葉RCに入られたという事でますます親近感を覚えております。

女性局長はNHK 47都道府県の中で、奈良と千葉の2人だけだそうです。全国で9人目の女性局長という事で、そういう意味でも非常に珍しいという事でございます。今日はNHK千葉放送局で今、篠原さんが取り組もうとされている事にまつわる、とっておきのお話を伺えたらと思います。宜しくお願い致します。

● 卓和

『NHK千葉放送局は今…』

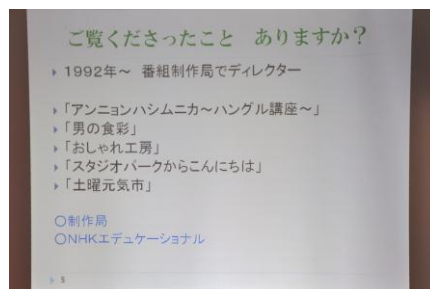
NHK千葉放送局 局長 篠原朋子氏



篠原でございます。6月15日に千葉に着任したのですが、早速に千葉RCに入れていただきまして、ロータリアンのはしくれとして、毎週月曜日に例会に参加させて頂いております。古川さんの御紹介にもありました通り、珍しいのが来たのでいっちょ話してみたいという事で、今日はお呼びいただいたと思います。私、NHKに入って一番楽しいと思っているのは、いろいろな方とお目にかかれる“出会い”が多い事

だと思っております、今日も勝浦でいろいろな方と知り合いになれる事を楽しみに参りました。どうぞ宜しくお願い致します。

スライドを使って分かり易く説明して頂きました。



篠原さんは1981年にNHKに入社され、番組制作局のディレクターを経て…



2000年に国際メディア・コーポレーション(MICO)に出向され、2002年に「冬のソナタ」等の番組の購入に携わります。



2003年にNHKに戻られ、その後様々な役職を歴任され、今年6月から千葉放送局初の女性局長に。千葉放送局では“震災を記録し、防災へ～地域の安全とくらしを守ります” “見える、つながる～地域の元気を発信します” “開かれた放送局～地域の皆様との信頼ときずなを強めます” の3つを目標に様々な取り組みをされているそうです。篠原様、貴重なお話ありがとうございました。

出席報告 9月21日(金)

出席委員会 前田安彦委員長

| 会員  | 出席  | MU | 欠席 | 出席率    |
|-----|-----|----|----|--------|
| 35名 | 23名 | 7名 | 5名 | 85.71% |

## ～「那智勝浦」紀行～

勝浦ロータリークラブ 50 周年実行委員会  
副委員長 高梨薫敏

天候不順が続く 2012 年 7 月下旬、＜那智勝浦ロータリークラブ＞との姉妹クラブ締結を調印すべく＜勝浦ロータリークラブ＞を代表して 4 名の会員が勇躍勝浦を出発しました。

時は 7 月 25 日(水)、心配された天候も絶好(?)の夏日和、勝浦駅 9 時 9 分発の「わかしお」メンバーは関正己直前会長(一宮より合流)、西川佳璋姉妹締結担当、釜田英之直前ガバナー補佐そして 50 周年実行委員会副委員長である私の 4 名。10 時 35 分東京駅着、昼食の弁当と飲み物を仕入れ東海道新幹線 11 時 6 分発の「のぞみ」に乗り換えました。

新幹線は乗り心地もよく飲み食いしているうちアツという間に 1 分の狂いも無く 12 時 51 分に名古屋駅につきました。乗り継ぎは紀勢本線 12 時 58 分なので 7 分しか時間はありません。結構気持ちのあせる乗り換えでしたが幸いにも割りと近いホームで余裕をもって乗り換えることができました。しかしながらここからが誤算、終点「紀伊勝浦」まで 4 時間近い行程なので当然車内販売があると思っていればこれが全然ありません。男 4 人、顔をつきあわせ喉の渴きをこらえながらロータリーの話など熱く暑く語り合い一路“那智勝浦”へ、ただ窓外の景色は房総とは大分趣きが異なります。山は高く、深く、緑濃く、蛇行する川を何度も鉄橋で渡り、山間の駅を通過し、トンネルをいくつも抜けて定刻 16 時 40 分、「紀伊勝浦」駅到着。

出迎えてくれたのは那智勝浦ロータリークラブ庵野了嗣会長、松下裕次郎会員、ホテルなぎさや社長田辺毅一会員、そして事務局の瀬戸さんでした。(暑い中ありがとうございました。)

早速、なぎさホテルの送迎バスに乗り込み豪雨による災害の酷かった地域への案内をお願いしました。丁度那智の大滝から流れてくる川に沿った家並みで那智の滝に向かいながら豪雨の爪あとを視察することができました。聞くと見るでは大違い、川には直径 2,3 メートルはあろうかという岩石がゴロゴロと

転がり、遠くに見える山々には樹木ごと崩れ落ち地肌が見えているところも何箇所か散見され豪雨の凄まじさを肌で感じました。那智の滝は周りを覆っている木々が崩れ落ち滝そのものの見通しは良くなったそうですが滝壺には大きな岩が転がっていました。帰り道には那智勝浦ロータリークラブが 50 周年時に寄贈したという古道入り口の「大門坂」の石碑も案内して頂きました。



・那智の滝 災害復旧工事の様子



・木々は崩れ落ち滝壺には大きな岩が見える



## ・那智勝浦 RC 寄贈の「大門坂」の石碑



宿は「ホテルなぎさや」、小さいトンネルを抜けるとプライベートビーチのようなところにホテルがあり鶴原の理想郷のような場所で以前は宮様の別荘があったということです。社長の田辺さんは私と同年で10年前にこのホテルを買い取り、新宮市のホテルと一緒に経営しているとのこと、しかも単身赴任で～（ご家族は横浜）

部屋はオーシャンビューで一人ではもったいないほどの広さ、早速海べりの露天風呂で長旅の疲れを癒し、差し入れの地酒でおいしい食事。熊野牛のステーキやマグロのステーキで明日への鋭気を養いました。

さて、翌26日も更に絶好の夏日和。なぎさホテルには若山牧水も逗留したことがあるとかで庭の一隅には歌碑もありました、例会は12時半からなので田辺社長の奨めもあり太地町のくじら浜公園に行くことにしました。鯨で有名な太地町是那智勝浦町の対岸にある町でホテルからも見通せるほどです。また、勝浦湾は紀の松島と言われるほど小島が多く遊覧船はその島々を巡りながら太地くじら浜に向かいます。船着場から強い日差しのなかを5分ほど歩くと鯨の博物館や海洋水族館があり1時間ほどイルカのショウや捕鯨の勉強をし、12時には例会場である「勝浦シテイプラザホテル」に到着しました。ほどなく姉妹締結の立会人である「吉野熊野新聞」社長谷川醇太郎氏も到着、あわただしく名詞交換をし例会場に入りました。当日はガバナ―補佐公式訪問例会ということでしたが私たちの帰りの時間を気遣って姉妹締結の調印式を先に行いました。

昨年来の課題とあって、那智勝浦クラブ直前会長の関国昭氏（臨済宗住職）と勝浦クラブ関正巳氏の間で谷川社長立会いのもと無事に調印がなされました。

このあと、勝浦クラブから那智勝浦クラブに会報や周年記念誌が贈られ更に豪雨災害に対する義援金として50万円が贈呈されました。（後に那智勝浦クラブより那智勝浦町に寄付）

私の方からは姉妹クラブの締結について勝浦クラブ全員の賛同を得てここに至ったことや来年4月21日の50周年記念式典についてPRさせて頂き例会場をあとにしました。

外はまだカンカン照りでしたが「紀伊勝浦」から「白浜」まで1時間ほどの行程なので街中で飲み物やおつまみを調達して電車に乗り込みました。白浜駅から空港まではタクシーで10分ほど、18時30分発の飛行機までまだまだ時間があったので和歌山ラーメンなどで腹ごしらえをしながら飛行機を待ちました。羽田には定刻通り19時40分着。東京の蒸し暑い空気の中モノレールから山手線に乗り換え、外房線21時発の「わかしお」に乗り無事勝浦に着きました。

ジジイ4人の珍道中でしたがご報告まで～



・若山牧水の歌碑(上)とクジラ浜公園(下)